

西脇市教育委員会会議録

令和4年6月定例会

令和4年6月29日

西脇市教育委員会

西脇市教育委員会会議録
令和4年6月定例会

＊ 定例会招集方法

文 書

＊ 定例会開催年月日

令和4年6月29日

＊ 開催場所

大会議室

＊ 開会及び閉会時刻

開会 午後3時00分

閉会 午後4時05分

＊ 議事日程

別紙議事日程のとおり

＊ 本日の会議に付した事件

- | | | |
|------|--------|---------------------------------------|
| 日程第1 | — | 会議録署名委員の指名について |
| 日程第2 | — | 前回会議録の承認について |
| 日程第3 | — | 会期の決定について |
| 日程第4 | — | 教育長報告 |
| 日程第5 | 報承第13号 | 令和4年度西脇市立学校給食センター物資調達
委員会委員の委嘱について |
| 日程第6 | 協議第1号 | ヤングケアラーに関するアンケート調査につい
て |

＊ 出席委員

教 育 長	笹 倉 邦 好
委 員	岸 本 み の り
委 員	柴 垣 美 紀
委 員	藤 尾 寛
委 員	和 多 眞 乗

＊ 欠席委員及び欠員
な し

＊ 議場に出席したものの職氏名

教育管理部長兼教育総務課長	高 橋 芳 文
教 育 創 造 部 長	足 立 英 則
教 育 委 員 会 参 事	遠 藤 一 博
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	村 上 昌 隆
人 権 教 育 課 長	伊 原 正 貴
生 涯 学 習 課 長	池 田 正 人
中 央 公 民 館 長	村 上 元 啓
生活文化総合センター館長	佐 藤 昌 彰
図 書 館 長	楠 本 昌 信
学 校 教 育 課 長	松 本 亨 昭
学校教育課主幹兼教育研究室長	衣 川 正 昭
学校教育課青少年センター所長	小 林 賢 也
学 校 適 正 推 進 課	鈴 木 成 幸
幼 保 連 携 課 長	長 井 恵 美

＊ 会議録作成者の職氏名

教育管理部長兼教育総務課長	高 橋 芳 文
---------------	---------

令和4年6月西脇市教育委員会定例会

議 事 日 程

6月29日 午後3時開会 大会議室

日程	議案番号	件 名
第 1		会議録署名委員の指名について
第 2		前回会議録の承認について
第 3		会期の決定について
第 4		教育長報告
第 5	報承第13号	令和4年度西脇市立学校給食センター物資調達委員会委員の委嘱について
第 6	協議第1号	ヤングケアラーに関するアンケート調査について

西脇市教育長 笹 倉 邦 好

◎教育長

—————〔教育長あいさつ…記述省略〕—————

◎教育長

まず、日程第1、「会議録署名委員の指名について」を議題といたします。会議録署名委員につきましては、私から指名させていただきます。岸本委員、和多委員の両氏にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

◎教育長

次に、日程第2、「前回会議録の承認について」を議題といたします。前回会議録につきまして全員のご承認をいただいてよろしいでしょうか。

—————〔「異議なし」の声あり〕—————

◎教育長

ご異議なしと認め、全員の承認といたします。

◎教育長

次に、日程第3、「会期の決定について」を議題といたします。6月29日、午後3時から、本日1日と決定したいと思います。これにご異議ございませんか。

—————〔「異議なし」の声あり〕—————

◎教育長

ご異議なしと認め、会期は本日1日といたします。

◎教育長

次に、日程第4、「教育長報告」を議題といたします。事務局から報告をお願いします。

—————〔報告…記述省略〕—————

◎教育長

報告が終わりました。何か質疑、ご意見ございませんか。

○委員

人権教育課のにしわきジュニアじんけん教室の田植え体験に、どのくらいの方が参加されたのでしょうか。年齢層も合わせて教えてください。

○事務局

児童生徒の参加者が約30名で、児童生徒の保護者や兄弟の方にもお越しいただいており、合計約50名の参加になっております。

◎教育長

ほかに質疑、ご質問がないようですので、教育長報告を終わります。

◎教育長

次に、日程第5、報承第13号「令和4年度西脇市立学校給食センター

物資調達委員会委員の委嘱について」を議題といたします。担当課から提案説明をお願いいたします。

—————〔提案説明…記述省略〕—————

◎教育長

提案説明が終わりました。何か質疑、ご意見ございませんか。

◎教育長

質疑、ご意見がないようですので、これより採決に入ります。報承第13号「和4年度西脇市立学校給食センター物資調達委員会委員の委嘱について」を原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

—————〔「異議なし」の声あり〕—————

◎教育長

ご異議なしと認めます。よって報承第13号は原案のとおり可決されました。

◎教育長

次に、日程第6、協議第1号「ヤングケアラーに関するアンケート調査について」を議題といたします。担当課から説明をお願いいたします。

—————〔説明…記述省略〕—————

◎教育長

説明が終わりました。質疑、ご意見ございませんか。

○委員

先日の会議でもお話をさせていただき、その後自分なりにいろいろと調べてみたところ、NHKの全国自治体アンケートがネット上に出ていたので確認しましたが、説明いただいたことと同じような内容が記載されていました。アンケート結果の中で、本人にヤングケアラーの自覚がない人の割合が非常に多いと記載されており、国も市町も同様で、本人にたどり着くまでに困難な事例が多く、学校で調査するにしても、本人にヤングケアラーの自覚がなければ、ヤングケアラーに該当しないという項目に印をつけてしまうのではないかと思います。前回の会議でも発言させていただいた通り、自分が学校に行けず勉強ができないという子どもに対して、その後の支援をどうするのかという部分についてはあまり聞こえてこないのですが、私としてはその部分が最も重要になっていくのではないかと思います。

○委員

私が少し古い考えなのかもしれませんが、ヤングケアラーがいる可能性がある等の記載がありますが、ヤングケアラーの存在自体は社会的には問題がないと思っています。一方で、介護者支援と解釈して話を聞くと、す

んなりと心に入ってきます。どのような支援ができるかという点については相手にもよると思いますが、子どもが介護していることを助けるという全体的な枠が、どうも漠然としているように感じます。また、支援内容等は報告が出てきた後に考え出すということなのではないでしょうか。それとも、既にある程度どのような支援が必要か想像されているのか、教えていただきたいと思います。全体的に漠然としており、理解し辛い部分があります。

○事務局

介護者支援とおっしゃられましたが、確かにそのような位置付けの子どももいると思います。このような子ども達をヤングケアラーと呼ぶのかどうかという点は微妙な位置づけになると思いますが、国の流れとしてはヤングケアラーに位置づける方向にあると思います。ただ、西脇市としては先程も申し上げましたように、学校生活に支障をきたしている子どもと今後支障をきたしそうな子どもの人数を数えるということです。人数を数えるだけで終わるのではなくて、先程、委員からのご意見があった通り、どのように支援に結びつけていくかということが大切だと考えています。ヤングケアラーに該当しそうな子どもがいれば、市の社会福祉課やスクールソーシャルワーカーと連絡を取り合うなど、家庭の事情等を調べた上で、支援が必要ということであれば支援に繋ぎ、お手伝いの範囲でヤングケアラーには該当しないということであれば、様子を見ていくというようなことになろうかと思っております。

○委員

ヤングケアラーという言葉だけがひとり歩きするのではないかと考えている部分があり、その中で先生方が多くの時間をとられるという事態にならないよう進めていただきたいと思います。介護等のために学校に通えなくなる事態は大変なので何とかしたいという気持ちは、ここにいる全員が一致していると思います。ただ、ヤングケアラーだという前提で、何人かの人が押し寄せてきたときに、どのように判断するのかなというところが気になっています。先生方の時間をどのように確保するかという点も同様に気になっています。

○事務局

教職員の時間や労力等、様々な課題も出てくると思います。学校教育現場でできることは、自分が世話をしているのは当然だと思っている子ども、自分がヤングケアラーだという認識がない子ども、認識はあるけれど助けてくれと言えないような子どもをいかにして拾い上げるかというところが最も重要な役割になると思います。支援が必要な子どもを助けていくということは、市の福祉部局が力を入れてやることであり、教職員から介護認

定を取るよう促すようなことや、介護認定を取る上での手続きを教えるようなことは、教職員の仕事ではないというふうに思っております。支援を要する人を拾い上げる能力を教職員につけることが、アンケート以上に重要になると思います。アンケート自身の意義は、大よその総数をつかみ、西脇市も全国と同じような流れだということを認識することが主となると考えています。

○委員

アンケートの内容が簡易な内容で、数の把握についても教職員の主観的な見方でのカウントになると思いますが、先程おっしゃられたように、困っている、または、困っていそうな子どもの数を教育現場から拾い上げて、福祉関連部署に繋げていくということは非常に大事だと思います。ただ、それにしても判定基準や基準の出先が、一般社団法人等様々な団体から出ているので、とても曖昧な内容になっていると思いました。

◎教育長

一連のやりとりを聞いていて思ったのですが、実数調査を行い、学校別学年別等で結果が出てくると思います。その結果は支援に繋つながらるようなデータとして提供するのでしょうか。

○事務局

私どもの考え方としては、この調査をしても既に関係機関へつながっている状態で出てくると考えています。例えば、ヤングケアラーだと思う人が5人で、福祉部局につながっている人が3人で、2人はつながっていません、ということであれば、なぜつながらないのかという話を教育委員会がしていかなければならないと思っています。しかし、実際に調査をして結果が出てくるのは、ヤングケアラーと思う人が5人いれば、5人ともつながっているはずだという思いです。

○事務局

補足いたします。実際には要保護児童対策地域協議会というものがあり、その中で、過去に小さい兄弟の世話をしていたという事例もあります。要保護児童対策地域協議会に挙がっているご家庭は、決してヤングケアラーに特化して挙がっているのではなく、複数の家庭の課題及び要因があつてのことです。要保護児童対策地域協議会に挙がっているご家庭がヤングケアラーに該当するかというところでは、実際には福祉部局と教育委員会が共有して把握している部分があります。教育委員会としては、今年度からスクールソーシャルワーカーが同席いたします。スクールソーシャルワーカーは関係機関とのパイプ役を果たしていますので、直接的に全体を把握して、早期の連携につながると思います。このようなところが窓口となっ

て、事務局で把握を行っています。しかし、虐待やいじめのアンテナを高く持つことと同様に考えれば、教職員に新たな目で、再度一番身近な子ども達を見ていただき、家庭環境の全てがわかっているわけではありませんが、家庭訪問もありますので、総合的に見てどうなのかという新たな見方もしていただいて、こちらが把握していない部分がありましたら、実際にどうしていくのかということになります。一方で、アンケートにも記載させてもらっておりますが、個人を特定しようとするものではないので、児童生徒への聞き取りは行わないでくださいとしています。厚生労働省の担当者からも、ましてや一人ずつの聞き取り等は絶対にしないでくださいとおっしゃっていました。家庭の事情は千差万別です。過度な聞き取りをしようとして、学級担任と家庭の関係性が悪くなってもいけませんし、子どもとの距離が離れてしまう可能性もあります。判断基準がない中で本当に難しいところですが、調査を終えた後の流れとしましては、支援につなげていきたいと考えております。

○委員

市長がアンケートを取ってほしいととても言われていましたので、アンケート自体は別にいいのかなとは思いますが、しかし、アンケートを取ったからといって、大々的に公表するのはどうかと思います。国の数字で17人に1人と記載がありますが、サンテレビ等の報道でも大々的に報道がなされていきました。また、女性議員の方で、テレビの報道でヤングケアラーについてよく言及されている方もいます。17人に1人だったり24人に1人だったり、そのようなことばかりが表になっており、ヤングケアラーという言葉がひとり歩きしている感じがして、個人的にはとても引っ掛かっています。家庭は本当に千差万別で、ヤングケアラーだと思っていなければ違うわけです。ケアマネージャーが関わられている家庭があったり、障害者の方がいて介護が必要な家庭があったり、全体を見わたしても、家庭の様々な事情があります。本当に引っ掛かる部分がたくさんあって、個人的にはどう発言していいか分からないぐらいです。ただ、家庭あつてのことなので、子ども達の耳にはあまり触れさせたくないと思いますし、先生の負担が大きくなってしまったら困ります。先生方は子どもの何気ない会話がきっかけとなって、お母さんが入院していたり、お兄ちゃんが病気になっていたり家庭の状況に気づく場面もあると思いますので、敢えて大々的にアンケートをとって公表することはあまり良くないのではないかと思います。

○事務局

今回、できるだけ先生方の負担を軽くしようということで、家庭訪問終

了後等のタイミングで、主観的にはなってしまいますが、教職員からこの子は学校生活に支障をきたしそうだと感じればカウントしていただいて、子ども自身にはカウントしていることやアンケートしていることは全く伝えないようにします。アンケートの内容も3問程度にして、何とかして学校の担任の先生の負担を軽くしたいという思いです。新たにこのアンケートで発見できれば成果があると思いますし、要保護児童対策地域協議会である程度数は掴んでおりますが、把握している以外の子ども達は何名かいたということになりましたら、今後、市長も政策的判断に使いたいとのことなので、教職員に負担をかけない程度でお願いをしたいというところで、本日提案をさせていただいております。

◎教育長

シミュレーションしてみると、例えば西脇市では15人に1人の割合でヤングケアラーがいましたということで公表するとします。例えば、議会で数の裏付けはどうなっているのかと質問が出てきた場合、教職員がアンケートを取りました、となるのが、我々が危惧しているところです。これと同じデータに近いものを福祉部局が掴んでいるのか、それだけ重要な数字だということに、現場の教職員は困るかもしれないと思っています。学校は行政とは少し違う部分があるということを考えて、慎重に進めないといけないところがあります。

○委員

この調査は、学校から子どもに聞くのではなくて、困られている方は福祉部局が必ず関わられているように思いますので、福祉部局からそういう子どもさんがおられたら、支援を受けられているのは親や家庭になるので、その家長や家族の代表者に、子どもに負担がないか聞く方が正直に答えられるかどうかは分かりませんが、実態をつかめるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

○事務局

確かに国のやり方としては、文部科学省ではなく厚生労働省が実施をされています。ただし、小学生に対しては教育的な配慮をしてください、ということや、持って帰りたくない子どもは持って帰らせてはいけないだとか、様々な難しい配慮をしてくださいとのことでした。子どもに直接持って帰ってくださいというよりも、学校の先生に主観的に見て、大体の数がどれぐらいなのか掴んで、実際のところというのは、ヤングケアラー等の研修を先生に積んでいただきながら、早期にそのような状態をキャッチしていただいて、スクールソーシャルワーカーに相談をかけていただくとか、教育委員会としては、そのような方向に動きたいということで話をしてい

ます。ですので、教育長からも話がありましたが、学校の先生が主観的にカウントするということは、後でどうなのかと言われれば、なかなか難しい部分ではあると思います。委員がおっしゃったような方法もありますが、こちらとしては一番子ども達も負担がかからない方法で、学級担任にはいくらか負担をかけてしまいますが、簡単な項目ということで何とかやっていきたいと思っています。

◎教育長

例えば、4番の括弧6番に、家計を支えるために労働して障害や病気のある家族を助けていると記載がありますが、障害、病気のほかにアルコール・薬物・ギャンブル等様々な欄が記載されています。障害、病気のある保護者の場合はヤングケアラーになり、そうでないものは家族に対応するところになるのでヤングケアラーなり得るのか、親の勝手から見ると全然違ってくる基準になると思います。また、家族から働かされている場合もあるかもしれません。昔であれば、新聞配達などで家計をいくらか支えている子ども達もいました。そのような子どもも現代ではヤングケアラーに該当するのでしょうか。子どもは何のために働いているのかということを意識せずやっているケースが多いと思いますが、私のように子どもの頃に労働体験をした保護者がヤングケアラーだと指摘を受ければ、何を言っているのだと反発があるかもしれません。ですので、様々な子ども達の生きざまや家庭がある中で、先生が主観的に聞いて決めるのも少し心配なので、判断する力を教職員が研究し、家庭の状況を見ながらヤングケアラーにすべきかどうか考えていかなければならないと思います。今日の神戸新聞でも、ヤングケアラー支援についての記事が出ていました。ヤングケアラーの判断が難しい中で、西脇市が先行的に教職員にお願いしてやろうとしています。今日もいろいろなご意見が出ましたけれど、これらをまとめて先生方にも理解していただいてやっていく必要はあると思います。

◎教育長

ほかにご質問がないようですので、「ヤングケアラーに関するアンケート調査について」を終わります。

◎教育長

これをもちまして、本日の議事は、すべて終了いたしました。慎重にご審議をいただきまして、ありがとうございます。それでは、このほかに委員様方からご意見等がございましたらご発言願います。

◎教育長

この間、市内総体がありました。入場制限が厳しく、人数も制限されていました。皆非常によく頑張っており、教職員も大変頑張っていました。

ただ、合同チームが多く見られました。バレーボールも男子では2チームしかなく、その他競技もチーム数が少なく、児童生徒の絶対数が減っているのでこのような感じなのかもしれないと思いつつ見ていましたが、これからの運動部活動が地域スポーツに変わっていくという印象を受けました。もちろん子ども達は一生懸命ですが、全体を俯瞰してみると、そのような感じがいたしました。随分昔とは変わってきているという報告をさせていただきます。

◎教育長

ほかにご意見等ございませんか。それでは、続きまして、各所属長から諸報告がありましたら、順にお願いします。

—————〔報告…記述省略〕—————

◎教育長

報告が終わりました。ご質問ございませんか。

◎教育長

ご質問がないようですので各所属長からの報告を終わります。

◎教育長

それでは、次に「次回定例会の開催日時について」協議をお願いします。事務局から提案がございましたらお願いします。

—————〔提案説明…記述省略〕—————

————— 協 議 —————

◎教育長

それでは協議の結果、次回の定例会は7月22日金曜日午後3時からと決定いたしますのでご予定をお願いいたします。

◎教育長

これをもちまして、本日の定例教育委員会を閉会いたします。ご苦勞様でした。

————— 閉 会 —————